

第 197 回 現代の東南アジアとインド

1 カンボジアの混乱と復興

- ・カンボジアは、1953 年、シハヌークを指導者としてフランスから独立した。
→1970 年のクーデタでシハヌークが追放された。
→1976 年には（ ）を率いるポル=ポトが政権をにぎった。



ポル=ポト

世界史上、何人かヤバイ人物が登場するが、そのひとりである。大虐殺を行ったが、最後はジャングルで死んだ。

☆（ ）（民主カンボジア）（1976～1979 年）

◆（ ）（在任 1976～1979 年）

- ・ポル=ポトは、中国を模範とする極端な共産主義政策をとった。
→また知識人を組織的に大虐殺したため、多くの犠牲者が出た。
- ・1978 年、（ ）の侵攻を受けて、ポル=ポト政権は倒れた。
→ベトナムの支援により、（ ）がカンボジア人民共和国を樹立したが、内戦が続いた。

- ・1989 年、ベトナムがカンボジアから撤退し、1991 年に和平協定が結ばれた。
→1993 年、国連カンボジア暫定統治機構 (UNTAC) の監視で総選挙が行われた。
※PKO (国連平和維持活動) の派遣が行われ、日本も自衛隊などを派遣した。
→シハヌークを王とする（ ）が成立した。
→フン=セン政権のもとで、1999 年には ASEAN に加盟した。



カンボジアの大虐殺

都市の市民や知識人は、反乱の恐れがあるということで、次々に処刑された。犠牲者の数は不明であるが、少なくとも 100 万人以上が虐殺された。



ヘン=サムリン

カンボジアの軍人で、ベトナムの支援でポル=ポト政権を崩壊させた。83 歳となった今も、国民議会の議長を務めている。



シハヌーク国王

第 181 回のプリントで初登場。民主カンボジアの時代は、ポル=ポトによって幽閉されていた。1993 年、28 年ぶりに国王に復帰した。2012 年死去。

2 現代の東南アジア

- ・1967 年に 5 カ国で（ ）が結成された。
→1990 年代になると多くの国が加盟し、現在は 10 カ国となっている。
- ・1997 年、タイの通貨暴落をきっかけとする（ ）により、多くの東南アジア諸国が経済混乱におちいった

<ベトナム>

☆（ ）（1976～2023 年現在）

- ・ベトナム戦争終結後、1976 年に南北ベトナムは統一された。
- ・1978 年、（ ）に侵攻し、ポル=ポト政権を倒した。
→中国と対立し、1979 年に（ ）となったが、中国を撃退した。
- ・1986 年、市場経済や外国資本を導入する（ ）という政策を始めた。

<ビルマ（ミャンマー）>

- 1988年、軍部クーデタにより軍事政権が成立した。
→1989年、国名をビルマから（ ）へ変更した。
- （ ）を中心とした民主化運動が続けられた。
→2015年、選挙によりアウンサンスーチーを指導者とする政権が成立した。
→2021年、クーデタにより再び軍事政権となり、民主化運動や少数民族ロヒンギャの弾圧などが懸念されている。



アウンサンスーチー
ビルマ独立の父アウンサン
将軍の娘。1991年にはノー
ベル平和賞を受賞した。

<インドネシア>

- 1998年、開発独裁を続けていた（ ）が、民衆の暴動により退陣した。
→その後はハビビ、メガワティ、ジョコなどが大統領に就任した。
- 1999年、（ ）の独立運動により、東ティモール内戦が発生した。
→2002年、東ティモールは独立を達成したが、産業基盤は弱体である。



メガワティ

メガワティは、建国の父であるスカルノの娘である。ただ第一夫人の娘なので、デヴィ夫人の娘ではない。テロが頻発し、治安の悪化に苦しんだ。



ジョコ

2014年にインドネシアの大統領に就任した。首都をジャワ島のジャカルタからカリマンタン島（ボルネオ島）に移転する壮大な計画の途中。趣味はヘヴィメタル鑑賞。



東ティモールの子供たち

インドネシアはオランダ領だったが、東ティモールだけはポルトガル領であった。独立は果たしたものの、経済的にやっつけられるのかどうか微妙なところ。

<フィリピン>

- 1986年、開発独裁を続けていた（ ）が、民衆の暴動により退陣した。
→コラソン=アキノ、ラモスなどを経て、2016年にドゥテルテが大統領に就任した。



ベニグノ=アキノの暗殺

マルコス政権を批判するため、亡命先から帰国したベニグノ=アキノは、空港で何者かに射殺された。黒幕は現在もはっきりしないが、これにより反マルコスの機運が高まった。



コラソン=アキノ

マルコスのあとに大統領となったのは、ベニグノの妻であるコラソン=アキノであった。2009年に死去。息子も大統領となった。



ラモス



ドゥテルテ

ラモスは軍人出身で、コラソン=アキノの後継者として、経済を発展させた。ドゥテルテは、麻薬の徹底的な取り締まりで人気を高めた。

3 現代のインド

- 1947年に独立したインドは、（ ）をめぐってパキスタンと激しく対立し、3度にわたるインド=パキスタン戦争（印パ戦争）が起こった。
→1974年にインドが核実験を行い、1998年に印パ両国が核保有宣言を行った。



インディラ=ガンディー
マハトマ=ガンディーとは血縁関係はない。結婚した夫の姓がたまたまガンディーだったため。

- ◆ （ ）（在任 1966～1977、1980～1984年）
- ネルーの娘であるインディラ=ガンディーは、貧困撲滅を目指した。
- 1984年、シク教徒の過激派によって暗殺された。
→長男のラジブ=ガンディーが首相となったが、1991年にやはり暗殺された。
- 1998年、ヒンドゥー至上主義をかかげるインド人民党の政権が成立した。